

中村俊定文庫
文庫 18
495



安永三年
下い水いし

中
ま
り
ま
る

好
子
る
ま
か

ま
か
好
子
る
ま

龍山



午の
試筆

書法に法の方彫、恬淡の類とて
里に小窓をまゝに格へてゆゑ
中へまゝにまゝにまゝに

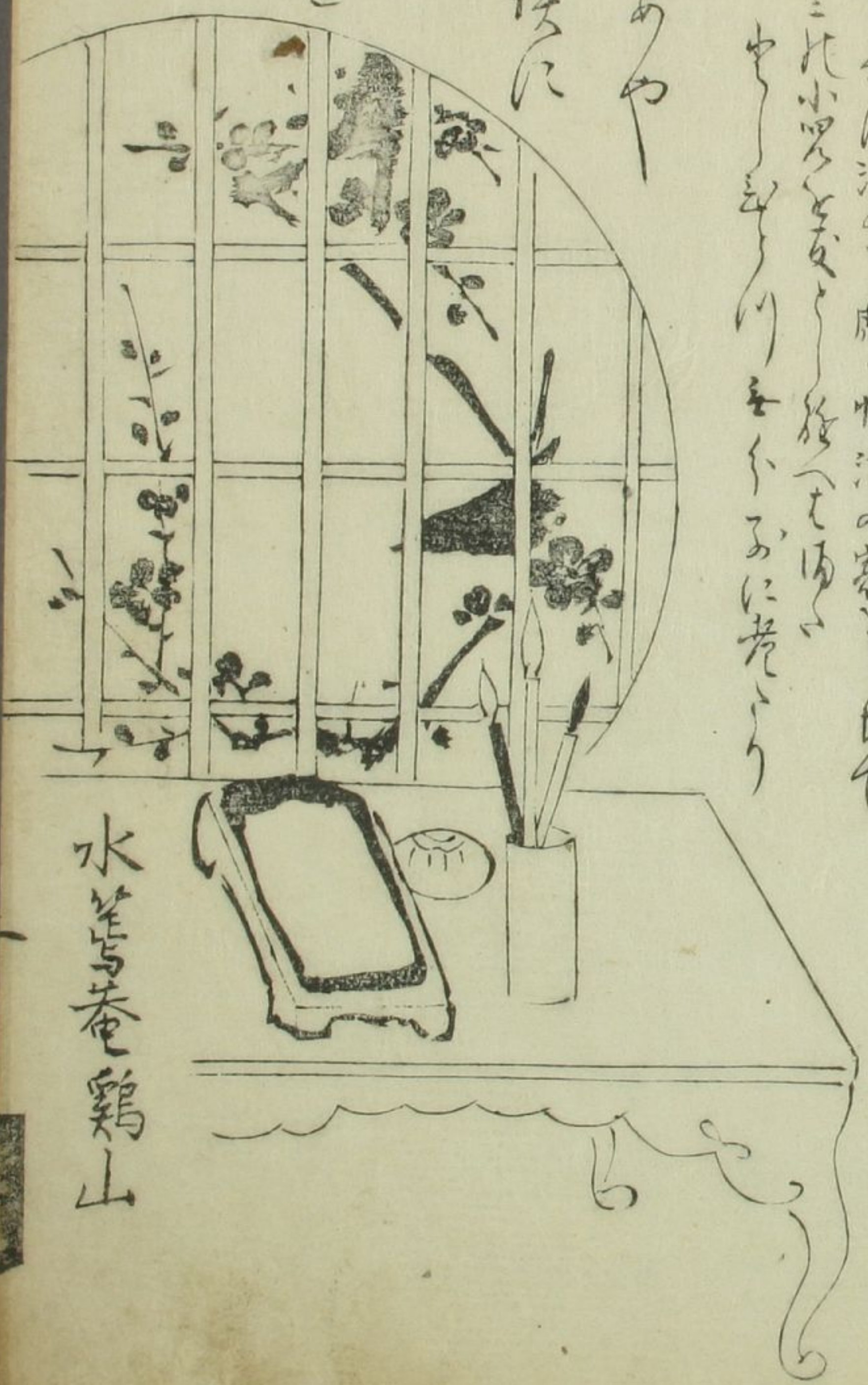
書
ら
あ
や

文
鏡
に

遠
く

海
と

あ
ま



水筆与菴鶏山



春興

月次連

ついでに移ればさうなうのころ
あつたれと解らうと暮れつゝ
まゝの氷のつらみ種海
しるや子音のよみきとらけ
山ゆや金なりけさの冷く
晴く又くも浦もや芦の角
たしとまゝ風の音なる柳ふ
月をまじや梅と暮るるはれ

岷山
周布
風吹
朝湖
亀水
雨牛
柳山
水篋菴

さあさや垣乃と字も片どそ
そやまゝまゝの芽もさぬら
りけらよの目さくく柳の家
さされあゝとさとのや田うら
梅くさくさくさく境 月影水
さすに思ふれくさく梅もさ

龍雨
半梅
梅五
湖外
奇鳥
千枝
思可

梅歌

飛くや梅枝の影さす思可

常盤木より親の身ごと様ふ
 其の水よりけりしやゆゑ
 去るれ一團の幸し桃のと
 初年やつりく後人の教
 多の心一まの千隈の心一獨
踏碓氷山
 言ひしは心まの心一まの心一
 花の心一まの心一胡蝶の心一
 雪解や團の心一りく仲の心一
 畔古

戀塚連

ちけそれ春の姿や別き 春 瑞芝
 多の心一まの心一まの心一 阪桑
 ちけそれ春の姿や別き 春 戸嘆
 貝の亂れ繪繪おまの心一 鳥白
 日を限る心あふれし 信夕
 野馬の心一まの心一動く柳の心一 仙風
 ちけそれ春の姿や別き 春 扇郎

雪折ハ人の答あり山はくそ
多川もた風の濁りや松の森
むゆきの捨ハ捨りう煙らり
金様棠や低りてあをぬ嘆 所
折曲る楳ていり くのれふ
今りあゝあゝあゝや新の春
喚起馬や告りてこゝろぬ事奈
隔る事忘るか花の屋もる

塩名田

柯則
文濤
調素
鬼一
山花
柳里
李尔
水管菴

動くと柳もれくと柳うね
けいようくまの別やあゝあゝ
まのゆかりたりりまの梅のそ
いそあや念のれりいと遅く嘆
浮るるもこ二も名や唱 燈
柳もと答むじまの何うまの
貴く人のりりく句く思おふ之
團くらや蘇也と似る掃 新中

標井

味柳
露桂
芦鳥
車雀
嗽石
吹石
眠蝶
水管菴

陽をやおもふの曲突の音しほ

牧布施

楚涼

やふ入やまのふ花乃 まりりら

ちと風

山くの歌もあらん能の音

魚藤

春の身にあまをきく一夏の花

了雅

やふ入や門の柳をえらるる

可涼

夏もれの歌もあらん能の音

買涼

花の身にあまをきく一夏の山

水篋菴

晴るる花もあらん能の音

春日 叶浦

松竹の節に隠し柳りか
あまの歌もあらん能の音

まき

梅里

平井

長花

傘のよへあまのりかまのりか

る風

秋巴

梅のよへあまのりかまのりか

下中込

蟻行

ちかまのりか形と能の音

湯系

春波

あまのりか山の節りか

ハニ

梧夕

大確りかあまのりか猫の音

若尺

川長のききやけりて紫夏のと

平原

松丈

○

折し落しゆの夕をるも 陸

平賀

君哉

猪陰れ垣のちりや柳のこ

柳牛

道も同じまをまのゆきしめのお

花外

嬌しきいじりしに似たりまをけり

女

素鏡

赤土の羅しきや紐のき

菊の

○

秩田や柳も水田川ぞい

与良

魯水

暮しては風とらむらう様うか

小法

朝宇

妻よりや百をれり水のみ

茂松

まをりたるいさよふて勢幸夷

菊軟

三角上層庭の苔とわりの内

仙步

梅とらふ乞目のゆきりものしら

苔和

しらを解の是ややりのしら

柳斜

かゝる凡のまらる柳のこ

芦帆

我もよむ書の人やそ減き

水筆菴

○
まきとくしんく乳母まきや桃の花
乳母花ははるやい柳
春のふゆはにききまのや

市町

し郎

系

栢舟

和洞

○
まきの、程やまのまのまのま

順井氏

鷺平

何鳥

九率

青柳やまのりけてまの車
けいまのまのまのまのまのま

柳花

まのまの陽をひくや氷の上
拂ふ塵をまのりけり勝葉
まのまのまのまのまのまのま

小布施

文地

蒼山

柳和

○
山神まの里れちかや煙りか
腰くけ石にまのまのまのま
流るまのまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのま
しるまのまのまのまのまのま

碓氷嶺

峰鳥

五百枝

百和

文帯

栞枝

雨の神をたぐく神や歌を花
水にたれんと眠り柳の
五月の夜もさくらも柳
水きやいししのもろの
たつた家た寝て花
睡月雲ははるも清し

尤兆
思考
三芭
素導
渡秋
文素

ゆり戸に鬼一とや 猫の息
そらぐ息吹けて谷乃音

高野町
如林
甫十

隣りれり枝や梅の花
とらふ夕枝に花やうの
舟車もまき初音梅の
むのりや蝶眠り花
静とらけり晴の昔天子
吹らるる新しうかき柳
けけらるる花をいそく柳
音つれて塔たうそき
うらむ愛のふらん

芦江
九節
舟車
素文
白沙
素人
一鳥
思々
文中

あはれ底ありて水の
あはれに獨りてや水の
後舟のふらふと舟の
濁りては月を照く言
これには水も霞もいし

夕次
可笑
菅若
柳志
羽光
大座
希上

あはれに水も霞もいし
あはれに水も霞もいし
あはれに水も霞もいし
あはれに水も霞もいし
あはれに水も霞もいし
あはれに水も霞もいし
あはれに水も霞もいし
あはれに水も霞もいし
あはれに水も霞もいし
あはれに水も霞もいし

素竹
素林
測水
梅正
松陰
平林
入山
孤山
五十
江凡
水善菴

下海所

○
遠くをわたりての山 高き山
ふれあひてきぬの地
みよはれ 後をひき 柳之

追分

御風

銀樹

女 柳之

○
多岐や 桂之 山の 暮れ久

小田井

桂之

あふれは 過ぎぬ 雲の 雪

ヨコ子

吟松

雲をよみ 水ささく 巻ふ

平尾

椿山

苗代の 水はけり 径^{ヨコ子}の

水等巻

○
芥土の 中へ 房々 月
おしひらりと 見え 猫は 急

大和甲

穰華

素桂

○
一見んを 雲の 雨土^{オシテ} 桂^{オシテ} 不
中をよみ あり 桂^{オシテ} 凡^{オシテ} 中

空糸

竹丈

巻石

阿佐良

三月や 梅着の 山の 白ひき
あふれ 雲の 雲 夷
三月や 梅着の 山の 白ひき

菊茂

水等巻

○
釣舟や岸のまぬ 是れ人
もさしとるまに 影を構うも
ねんといふ人 通はれやと物言
きのうまを雪の中 ありまをまじ
接穂のしやまをさうりてる 深
山くはに似てうらみ しのぶの雲
福吉の地味やまを ね草の元
そとやと物初 借さうりてる

印田

石反
ち路
榎枝
谷水
凡縁
未白
音林
接舟

○
之とくても乃ち ありまを海の花
さつね板と磨て 出るや芥菜
折てさるまを 人前 ねの毒

皆は

一林
釣月
以秀

○
柳のまにまに ありまを柳子
流り少く 掃除のまを ねの毒

七産

長芳
柳中

布引山普門歌

嶺川に 濁らうと ねをわてしつ

水邊亭

春興

五七のれ

破月体

花水

風一舒々

鳥羽子

凡のそ成体々雨の柳之由
水底乃歌とくくゆきよふ
つとくく 瑞鷹はむね柳之

蕭雪

柳疎

雞山

うしろのやまより梅竹梅子
ほろりゆきよふかふ柳之
柳之跡を山と名くしきふ

上毛前梅

素鞆

素毫

烏楊

ひさしやとふくまをいりて花
秋まにのゆきをい庭の梅
大空より雪ころり川原
と名くし山と名くしきふ

斤山

双仙

札月

千花

分枝

梅の香の中づの影り一動く
みどりよれ乳鳥射てつじけ
吉井 其蝶 羽行

真冬もけりぬきぬゆきの梅
此の影よき葉のせりや歌ふこと
玉打 雪水 草句 豊水

中江多ふ人の心をわらふまゝ
柳も人しやぬされんか
高崎 笠松 夕

梅の梅やととく川山を
まらまや柳もくは見えたり
白戸 柳魚 練後 雨行

雪や暖るもれぬ起し
甲州 梅雪

雪もよもやととく丸ある端
ゆらゆらとゆらゆらと
平市 規水 吉中 辰子 花鳥 柳

腸よりゆきさりし物ありて
飛ぶく水に流されつゆ
喜風や信るるまゝ 深杭
しるしに於てはまゝ
あや御のまゝもはれは外

引開

大露

国根

素且

上音丹

深杭

小音

發音

小音

道山

文通 まきまき

いづらにありはまゝ
晴月水音多れは
氣のつらきよ小家梅の花
梅多きや人の道なり川白
うつらき門の松とまきれ
新成や一握り秋のつゆ

巻何

鳥明

入替

浮石

標石

標石

此玉の他名考と撰て後世の世と云
詠句と云ふ事

一音

むらぎと小魚屋の山田
まきくじむいさて なるのた

地前 利一
徳州 多陽

名月や草を散る 水凡標

江戸 園齋

ちくちく... 山田... 散る... 水凡標

山園の山より... 散る... 水凡標

吉備 東記

遺教

まきくじむいさて... なるのた... 山田... 散る... 水凡標

まきくじむいさて... なるのた... 山田... 散る... 水凡標

入んといふもいふも一語の解制をいふもいふも
ふふ一詩哥れ家乃何解何格とて其
解を格のいふもいふも解制をいふもいふも
時といふもいふも其作をいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふもいふも
いふもいふもいふもいふもいふもいふも

家
制

水
軍
房

其
の
事

其
の
事

五
七
五

